2011年6月と8月、私にとって興味深いオークションが2件ほど行われた
・1721年製ストラディヴァリウス　レディブラント
　落札価格　1589万4000ドル（6月当時約12億7000万円）
・1957年式フェラーリ　250テスタロッサ
　落札価格　1640万ドル（8月当時約12億6000万円）
ほぼ同額である、どちらもそのジャンルでは過去最高の落札価格を記録した
前者はアントニオ・ストラディヴァリ作1721年に制作され詩人バイロンの孫娘“Lady Blunt”が所有していたことからこの名がついているもの　驚くべき事に保存状態が非常に優れており、損傷もなくほぼ未使用品、制作当時の姿を現在にとどめる極めて貴重な個体で当時のネックやバスバーもそのまま残っているというシロモノだ
後者はクラシックフェラーリの中でも、特に希少価値の高いとされるスカリエッティの最高傑作“250Testa Rossa”　1957年から58年にかけて本社マラネッロで限定製造された総台数22台中、19戦レースに出場し10勝を上げた1台
ヴァイオリンとスポーツカーというまったくジャンルの異なる二つのモノ、経過年数も現存個体数も大きく異なるが、落札価格がほぼ同額ということは単なる偶然か　比較するのも愚行だが*「どちらのほうが12億数千万円というお値段に見合ったモノなのであろうか」*　当たり前だが、レディブラントはストラディヴァリ本人が制作したこの世に1挺、しかも今年2011年から290年というとてつもない経過年数をほこっている、かつ未使用状態である！これは奇跡としか言えないだろう　「レディブラント、安すぎだろ！」というのが私の率直な感想だ　290年という時の経過だけが魅力なのではない、ただ古いからという事実を愛する精神性ではない　レディブラントもテスタロッサも「古い」ということ自体に魅力を覚えるのではありません　スマートフォンやプリウスの時代になったが今後アンティーク、骨董といった年代物ジャンルはさらに理解、関心の度合いが高まるような気がしてならない　それは時代（技術、IT）が進化すればするほど時の経過だけが熟成できるロマンに心惹かれる度合いが増幅するからだと思う
もっとプリミティブな部分、心に響くか、心が振れるかといった数値化できない部分
「進化は過去を駆逐するか？」　私の答えはＮＯ　確かにコンピュータや家電、デジタル製品などの日進月歩はすさまじい　新しいＰＣはより処理能力が高いであろうし新型車は快適で燃費もよく故障も少ないだろう　だが絵画や書、陶磁器や楽器、時計などはどうか、古い車はどうか　これらは様々な技術やITの進化だけではない特有の「何か」を内包している　これが時の流れだけが生み出せる熟成、目新しいモノにはないロマンなのだ　現にそれを求める人がいる　年代物の楽器、車、ワインも時計もみんなそうだ
単に昔のものがいい、という懐古主義ではない　知識じゃなく美意識で見ないとダメ、心が振れるかどうか　所有すると言うより預かっているような感覚も必要だろう　現在、世の中はモノであふれ飽和状態だ　年代物は何でも手に入る今だからこそ一期一会であるという一面も持っている　その新鮮さに私は惹かれる